



Title	地方農村部の昼間定時制課程における「教育的意義」：音更高校定時制農業科のアンケート結果を中心に
Author(s)	高野, 正
Citation	公教育システム研究, 13, 47-54
Issue Date	2014-08-18
Doc URL	<a href="http://hdl.handle.net/2115/56775">http://hdl.handle.net/2115/56775</a>
Type	bulletin (article)
File Information	AA11562857_13_47-54.pdf



[Instructions for use](#)

## 地方農村部の昼間定時制課程における「教育的意義」

——音更高校定時制農業科のアンケート結果を中心に——

高野 正\*

### ——目 次——

1. はじめに
2. アンケート調査の概要と生徒の基本情報
3. アンケート調査の結果と考察
  - (1) 音更高校定時制農業科への進学について
  - (2) 音更高校定時制農業科での学習や高校生活について
  - (3) 音更高校定時制農業科の募集停止について
4. おわりに

キーワード：定時制高校、昼間定時制農業科、高校統廃合、低学力・不登校

### 1. はじめに

2012年9月4日、道教委（北海道教育委員会）は、平成25～27年度の『公立高等学校配置計画』を決定した。その中身は、高校統廃合そのものは無かったものの、道内9校（岩見沢東・奈井江商業・札幌西陵・千歳北陽・富川・旭川凌雲・留辺蘂・釧路商業・釧路東）の各1学級を間口減、2校（札幌真栄・札幌平岡）の各2学級を間口減、そして、十勝管内の帯広農業高校と音更高校の昼間定時制農業科をそれぞれ募集停止にするといった内容のものであった。このうち、募集停止となった2つの昼間定時制農業科は、「様々な困難をかかえて全日制高校に進学できなかった子どもたちにとって貴重な学びの場となっている」といったことが言われ、2校の募集停止の決定に対して、地域（地元）や学校関係者の間では「再考されず残念」との声もあがった<sup>注1)</sup>。

こうした募集停止を含めた高校再編、すなわち高校統廃合を決定するプロセスは、教育行政の責任者を中心とした「大人」による議論で進められ（すなわち、「机上の論理」）、本来の「学びの主人公」である「子ども」の“声”や“想い”をきちんと取り入れたり、反映させたり（つまり、子どもの実態から出発）することは、ほとんどの場合ないのではないだろうか。その意味で、たとえ募集停止が決定し、その決定を覆すことは不可能だとしても<sup>注2)</sup>、そこで学ぶ生徒（子ども）の“声”や“想い”をしっかりと聴き取り、学校や教育のあり方を考えることは、今後の高校統廃合を検討していくうえでとても重要な焦点

\*北海道音更高等学校教諭 北海道大学大学院教育学研究科教育計画講座修士課程（教育行政学研究グループ）修了

だといえる。

そこで、本稿では、音更高校定時制農業科を調査対象として、そこで学ぶ生徒にアンケート（質問紙）を実施し、そのアンケートの結果から子どもの“想い”を聴き取ることを通して、音更高校定時制農業科の「教育的な意義」を考えてみたいと思う。

## 2. アンケート調査の概要と生徒の基本情報

調査は、アンケートを音更高校定時制農業科 2013 年度在籍生徒（55 人）に対して、2013 年 9 月 12 日（1 年生 19 人）、17 日（2 年生 17 人）、19 日（3 年生 19 人）にそれぞれ実施した。回答は、回答数が 53 人（回収率 96.4%）、このうち男子 35 人（66.0%）、女子 18 人（34.0%）、また、1 年生 19 人（回収率 100%）、2 年生 16 人（回収率 94.1%）、3 年生 18 人（回収率 94.7%）であった。

はじめに、音更高校定時制農業科 2013 年度在籍生徒（5 月 1 日現在）の基本情報について確認しておこう<sup>注3)</sup>。音更高校定時制農業科 2013 年度在籍生徒は、男子 42 人、女子 21 人、また学年別では、1 年生 25 人、2 年生 19 人、3 年生 19 人の合計 63 人であった<sup>注4)</sup>。このうち、町内出身生徒（音更町）は 77.8%（49 人）、そして、農家出身生徒は 4.8%（3 人）となっている。このことから、昼間定時制農業科という学科特性に関して、町内出身生徒は 8 割近くを占めてはいるが、「定時制農業科」とはいつても、農家出身生徒は 1 割にも満たず、さらに農業後継予定生徒は現在のところ 2 名という実態からすると、「地域に根ざした『農業後継者』」を育成するといった北海道における伝統的な農業高校（農業学科）の理念（目的）<sup>注5)</sup>とはほど遠い現実を指摘することができる。

## 3. アンケート調査の結果と考察

### （1）音更高校定時制農業科への進学について

次に、音更高校定時制農業科に進学した理由についてみると（図 1、図 2）、学習に関する理由としての「農業や園芸の勉強に興味があったから」22.6%（12 人）、「実習や実技が好きだから」17.0%（9 人）は少なく、逆に回答の多かったものは、多いものの順に、「自分の成績に合っているから」62.3%（33 人）、「ただなんとなく」39.6%（21 人）、「通学に便利だから」30.2%（16 人）、「友達が行くから」26.4%（14 人）となっている。また、音更高校定時制農業科への進学意欲のうち、「積極的に希望していた」は 39.6%（21 人）ほどであり、約 6 割の生徒は、「べつにどこの学校でもよかった」39.6%（21 人）、「本当は別の学校に行きたかった」20.8%（11 人）であった。このことから、「農業」という専門的な知識・技術を学びたいという学習面での積極的な進学意欲を持って入学してくる生徒は決して多くはなく、さらにそこへ中学 3 年次の成績を重ね合わせてみると（「中の下」24.5%[13 人]、「下」64.2%[34 人]）<sup>注6)</sup>、学力下位層の生徒が大半を占め（合計 88.7%、47 人）、したがって、多くの生徒は、成績に強く枠づけられた進学実態となっている。

しかし一方で、音更高校定時制農業科への進学をすすめたのは、「自分で選んだ」68.6%（24 人）が最も多くなっており、このことから、「この高校（音更高校定時制農業科）にしか行けない」というある種の本音が透けて見え、学力面に困難（その背景には、不登校

や経済的な側面あるいは発達の課題といった問題も密接に含意していると考えられる) をかかえている生徒にとっては、音更高校定時制農業科は進学保障の観点から“必要不可欠な高校”といえる可能性が示唆される。

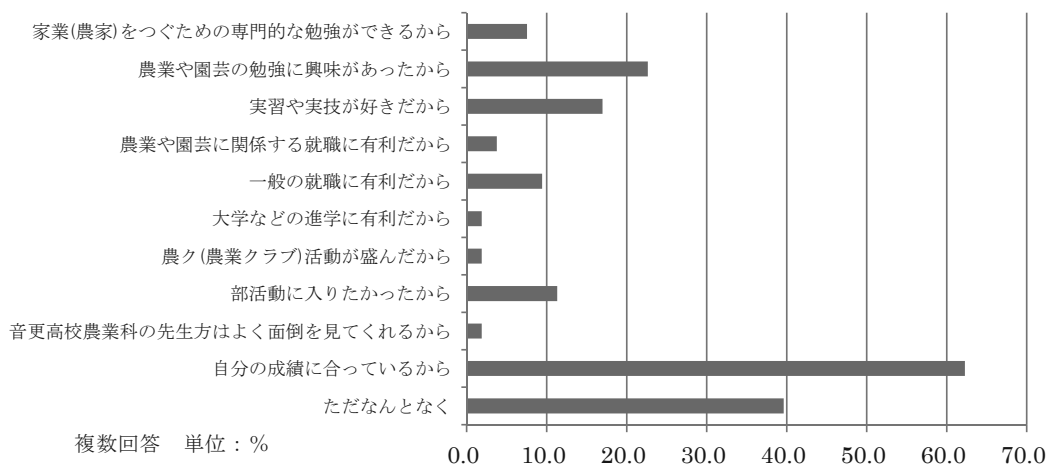


図1. 音更高校定時制農業科に進学した理由〈A群〉

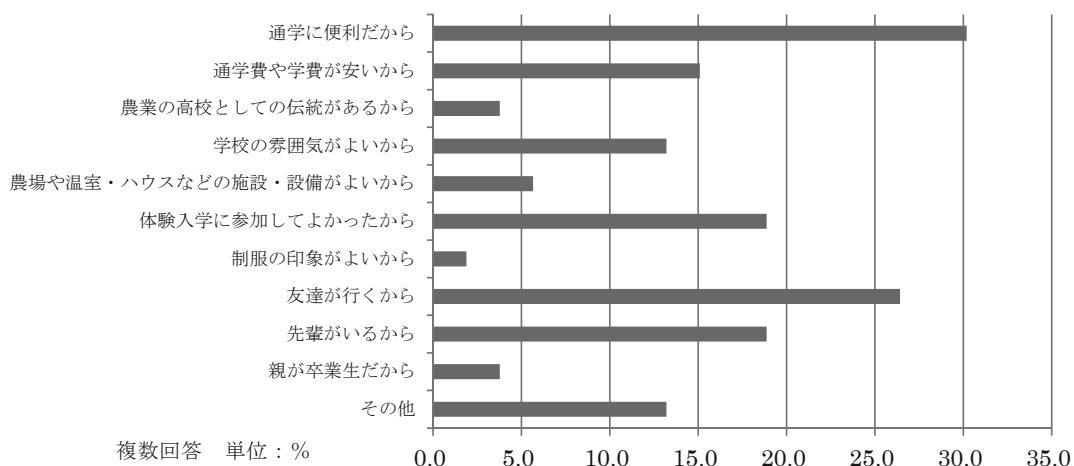


図2. 音更高校定時制農業科に進学した理由〈B群〉

そこで、中学3年次の様子について概観してみると(表1)、中学3年次の「欠席や遅刻・早退をしなかった」に関しては、「とてもあてはまる」26.4% (14人)、「ややあてはまる」20.8% (11人)、「あまりあてはまらない」26.4% (14人)、「まったくあてはまらない」26.4% (14人)となっており、欠席や遅刻・早退が多かった生徒が5割を越える。同様に、「授業をきちんと受けた」に関しては、「とてもあてはまる」20.8% (11人)、「ややあてはまる」32.1% (17人)、「あまりあてはまらない」22.6% (12人)、「まったくあてはまらない」24.5% (13人)となっており、授業をきちんと受けなかった生徒は、

5割近くを占めている。つまり、音更高校定時制農業科へ進学してくる生徒は、不登校ないしは不登校傾向の生徒や授業にあまり前向きではない生徒といった、いわゆる「学校不適応」型の生徒が全体の半数にのぼっていることがわかる。

表1. 中学3年次の学校生活や授業の様子に関する自己評価

項 目	とてもあてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない
欠席や遅刻・早退をしなかった。	26.4% (14人)	20.8% (11人)	26.4% (14人)	26.4% (14人)
授業をきちんと受けた。	20.8% (11人)	32.1% (17人)	22.6% (12人)	24.5% (13人)
部活動に熱心に参加した。	22.6% (12人)	18.9% (10人)	17.0% (9人)	41.5% (22人)

## (2) 音更高校定時制農業科での学習や高校生活について

それでは、中学までに学習や生活面で、そこに程度の差こそあれ、様々な困難をかかえた生徒が多く進学してくる音更高校定時制農業科において、入学後、授業や日々の高校生活を過ごすなかで、生徒たちは学習や高校生活に対してどのような感想（満足度）を持っているのであろうか。ここではその点について考察してみたい。

現在（音更高校定時制農業科で高校生活を過ごして）、「中学校の時に比べて、授業が楽しい」を「そう感じる」生徒（「とてもそう感じる」と「少しそう感じる」の合計）は69.8%（37人）であった（表2）。以下同様に、「中学校の時に比べて、授業が分かる」は79.2%（42人）、「中学校の時に比べて、友だちとの関係が良い」は56.6%（30人）、「中学校の時に比べて、先生との関係が良い」は56.6%（30人）となっており、音更高校定時制農業科全生徒の半数以上の生徒が学習面や友人・教員との関係性に関してポジティブな感想を持っている。特に学習面においては、高い満足度が示され、総じて、「中学校の時に比べて、学校生活が楽しい」は51.0%（27人）であった。

これらの結果から、音更高校定時制農業科の教育効果に関して、それがどのような教育活動（内容や実践）によってもたらされているのかについては、今回の調査で具体的に明らかにすることはできなかったが、多くの生徒が学習や高校生活を肯定的に捉えているといういくつかの事実は、音更高校定時制農業科の「教育的な意義」を確認できる一つの“手がかり”と考えてもよいであろう。

表2. 全生徒の音更高校定時制農業科における授業や高校生活に関する感想（満足度）

項 目	とてもそう感じる	少しそう感じる	あまりそう感じない	まったくそう感じない
中学校の時に比べて、授業が楽しい。	18.9% (10人)	50.9% (27人)	17.0% (9人)	13.2% (7人)
中学校の時に比べて、授業が分かる。	28.3% (15人)	50.9% (27人)	11.3% (6人)	9.4% (5人)
中学校の時に比べて、友だちとの関係が良い。	26.4% (14人)	30.2% (16人)	28.3% (15人)	15.1% (8人)
中学校の時に比べて、先生との関係が良い。	15.1% (8人)	41.5% (22人)	20.8% (11人)	22.6% (12人)
中学校の時に比べて、学校生活が楽しい。	20.8% (11人)	30.2% (16人)	28.3% (15人)	20.8% (11人)

だが、音更高校定時制農業科の「教育的な意義」をより深く検討するためには、単にそれだけではなく、もう一方の“極”において、音更高校定時制農業科に様々な困難をかかえて進学してきた生徒のうち、最も困難をかかえている層と考えられる、中学3年次の「欠

席や遅刻・早退をしなかった」ならびに「授業をきちんと受けた」に対して、「まったくあてはまらない」と回答した生徒の感想（満足度）をみておく必要がある。

結果は、中学3年次の「欠席や遅刻・早退をしなかった」に対して、「まったくあてはまらない」と回答した生徒（14人）の「中学校の時に比べて、授業が楽しい」を「そう感じる」生徒（「とてもそう感じる」と「少しそう感じる」の合計）は64.3%（9人）、以下同様に、「中学校の時に比べて、授業が分かる」は64.3%（9人）、「中学校の時に比べて、友だちとの関係が良い」は64.3%（9人）、「中学校の時に比べて、先生との関係が良い」は42.8%（6人）、「中学校の時に比べて、学校生活が楽しい」は50.0%（7人）であった（表3）。また、中学3年次の「授業をきちんと受けた」に対して、「まったくあてはまらない」と回答した生徒（13人）の「中学校の時に比べて、授業が楽しい」を「そう感じる」生徒（「とてもそう感じる」と「少しそう感じる」の合計）は69.2%（9人）、以下同様に、「中学校の時に比べて、授業が分かる」は77.0%（10人）、「中学校の時に比べて、友だちとの関係が良い」は61.6%（8人）、「中学校の時に比べて、先生との関係が良い」は53.9%（6人）、「中学校の時に比べて、学校生活が楽しい」は61.6%（8人）であった（表4）。

表3. 中学3年次の「欠席や遅刻・早退をしなかった」に対して、「まったくあてはまらない」と回答した生徒の感想（満足度）

項目	とてもそう感じる	少しそう感じる	あまりそう感じない	まったくそう感じない
中学校の時に比べて、授業が楽しい。	7.1% (1人)	57.1% (8人)	21.4% (3人)	14.3% (2人)
中学校の時に比べて、授業が分かる。	14.3% (2人)	50.0% (7人)	21.4% (3人)	14.3% (2人)
中学校の時に比べて、友だちとの関係が良い。	35.7% (5人)	28.6% (4人)	21.4% (3人)	14.3% (2人)
中学校の時に比べて、先生との関係が良い。	7.1% (1人)	35.7% (5人)	28.6% (4人)	28.6% (4人)
中学校の時に比べて、学校生活が楽しい。	7.1% (1人)	42.9% (6人)	28.6% (4人)	21.4% (3人)

表4. 中学3年次の「授業をきちんと受けた」に対して、「まったくあてはまらない」と回答した生徒の感想（満足度）

項目	とてもそう感じる	少しそう感じる	あまりそう感じない	まったくそう感じない
中学校の時に比べて、授業が楽しい。	7.7% (1人)	61.5% (8人)	15.4% (2人)	15.4% (2人)
中学校の時に比べて、授業が分かる。	30.8% (4人)	46.2% (6人)	7.7% (2人)	15.4% (2人)
中学校の時に比べて、友だちとの関係が良い。	23.1% (3人)	38.5% (5人)	23.1% (3人)	15.4% (2人)
中学校の時に比べて、先生との関係が良い。	15.4% (2人)	38.5% (5人)	15.4% (2人)	30.8% (4人)
中学校の時に比べて、学校生活が楽しい。	7.7% (1人)	53.8% (7人)	15.4% (2人)	23.1% (3人)

以上のことから、各生徒群の音更高校定時制農業科における授業や高校生活に関する感想（満足度）を比較してみると（表5）、中学3年次の「欠席や遅刻・早退をしなかった」に対して、「まったくあてはまらない」と回答した生徒群の「中学校の時に比べて、先生との関係が良い」がやや低かったものの、それ以外のすべての項目で、中学3年次の「欠席や遅刻・早退をしなかった」ならびに「授業をきちんと受けた」に対して、「まったくあてはまらない」と回答した生徒群であっても、概ねポジティブな感想を持っていること

が明らかとなった。とりわけ、中学3年次の「授業をきちんと受けた」に対して、「まったくあてはまらない」と回答した生徒群の「中学校の時に比べて、学校生活が楽しい」は、6割を超える結果であった。したがって、すでに述べたが、音更高校定時制農業科に進学してくる生徒は成績に強く枠づけられているため、学力面に困難をかかえている生徒にとっては、音更高校定時制農業科は進学保障の観点から“必要不可欠な高校”とみることができるとは、しかしそれだけではなく、さらに高校のあり方をひろくとらえ直した場合、音更高校定時制農業科は、様々な困難（低学力や不登校等）をかかえた生徒が高校生活をおくるうえで、“教育的にも意義のある高校”なのだと換言することができるのではないだろうか。

表5. 各生徒群の音更高校定時制農業科における授業や高校生活に関する感想（満足度）の比較

生徒群	中学校の時に比べて、授業が楽しい。	中学校の時に比べて、授業が分かる。	中学校の時に比べて、友達との関係が良い。	中学校の時に比べて、先生との関係が良い。	中学校の時に比べて、学校生活が楽しい。
全生徒	69.8%	79.2%	56.6%	56.6%	51.0%
中学3年次の「欠席や遅刻・早退をしなかった」に対して、「まったくあてはまらない」と回答した生徒群	64.2%	64.3%	64.3%	42.8%	50.0%
中学3年次の「授業をきちんと受けた」に対して、「まったくあてはまらない」と回答した生徒群	69.2%	77.0%	61.6%	53.9%	61.5%

そこで、このことに関して、今年度入学した1年生女子生徒の作文を1つ紹介しておこう。この作文は、第57回定時制通信制生徒生活体験発表日勝地区予選会で発表されたものの抜粋（一部省略）である。

私は中学の時、友達関係がうまくいかず、学校にあまり行っていないでいました。中学3年の後期には、教室にも入れなくなって保健室登校していました。

死のうとしたこともありましたが、でも、怖くて死ねません。すると友達は「死のうとしても死ねない人は、死にたくない人」だと言われ、自分は死にたくないのかなと思いました。

こんな事を思い始めた私は、今まで辛いことばかりだったけれども、高校生活は楽しく過ごしたい。自分は一人じゃない。友達も仲間もいると考えるようになりました。

そして、私は決めました。同じ小学校や中学校だった人があまり行かない高校に行き、友達を作り直そう。例えば友達ができなくてもいい。もう学校はあまり休まない。必ず高校は卒業する。祖母と親、友達とも約束しました。

高校の入学説明会の時に、ドキドキしながら受付をして体育館に行きました。皆知らない人ばかりで不安でいっぱいでしたが、私に声をかけてくれた子がいました。まさか友達ができると思っていなかったので、私はうれしくなり早く高校に行きたいと思いました。

私は中学校でできなかった事を高校でやりたい。今まで後悔ばかりしてきたので高校では後悔しないように努力しようと思います。これからも不安でいっぱいになるかも知れませんが、でも、もう一人で抱え込まずに勇気をだして友達に相談したいです。迷惑をかけてしまうかも知れませんが、今までみたいに我慢のしすぎには気をつけようと思います。

まだ高校生活は始まったばかりで不安なことはあるけれど、いつかは不安も消えて、毎日

笑顔で明るく元気に過ごせようしたいと思います。そのために、心の強い人になりたいです。

### (3) 音更高校定時制農業科の募集停止について

こうした想いを抱いている生徒が少なからず在籍して（学んで）いるなかで、道教委は昨年度、音更高校定時制農業科を、2014年度をもって募集停止（廃止は2016年度）にすることを決定した。

それでは最後に、音更高校定時制農業科の募集停止（廃止）に対する生徒アンケートの結果をみてることにしよう。「あなたは音更高校農業科の募集停止（廃止）について、どう思いますか」に対する回答は、「とても残念だ」39.6%（21人）、「しかたがないと思う」22.6%（12人）、「わからない」37.7%（20人）であった。そして、「とても残念だ」の代表的な理由（意見）は、「僕のようなふつうの高校に行くのがむずかしい人や純粋に農業に興味のある人たちがかわいそうだから」「定時制が柏葉（帯広柏葉高校の夜間定時制課程の意——筆者注）だけになるのは、さびしいと思うから」「中卒の人が増えると思うし、下の学年が1学年しかないので残念です」「今の中2の人の中で音更高校定時制を希望していたとしてもその時にはもう募集をしていないから」「農場とかいろいろな設備があるのに廃止するのはもったいないと思う」「自分のためになっていたから」等が挙げられていた。

自分たちの高校（学科）が募集停止（廃止）になるということは、在籍（現役）生徒にとっては、とても大きな問題としてとらえられているようであり、「わからない」がほぼ同数となっていることにもみられるように、単純に多くの生徒が「とても残念だ」との回答にはなっていない。しかし、それらの理由のなかにある、「僕のようなふつうの高校に行くのがむずかしい人」「中卒の人が増えると思う」「自分のためになっていたから」という“つぶやき”にも似た、短いメッセージに込められた想いは、ここまでアンケートの結果を分析することを通して導かれた、「音更高校定時制農業科は、様々な困難（低学力や不登校等）をかかえた生徒が高校生活をおくるうえで、“教育的にも意義のある高校”なのだということ“を“ささやか”に代弁しているようにも思えるのである。

以上、アンケートの結果から、生徒たちの音更高校定時制農業科への進学、学習・高校生活、そして募集停止に対する“想い”についてみてきたが、今回の調査では、音更高校定時制農業科での「授業が楽しい」「授業が分かる」「学校生活が楽しい」といった事象を確認するのみにとどまり、それがどのような教育活動（内容や実践）によってもたらされているのかについては、具体的に明らかにすることはできなかった。したがって、たとえばそれが農業の学習や農場実習の体験などに起因しているのかどうかという「農業教育」の学習レバンス（relevance）に関する考察等も試みていかなければならないと考えているが、その点については今後の研究課題としたい。

## 4. おわりに

現在進められている高校統廃合（高校再編）の全体像は、これまでの「高校教育改革」、すなわち、社会・経済的な変化による高校の多様化政策に、少子化による「生徒数の減少」



がその推進の根拠となつて一挙に活発化し、そこへ地方自治体の財政悪化が一層の拍車をかけた構図として描くことができる。

こうした状況下において、高校統廃合の対象となる可能性が高いのが地方の小規模校や定時制高校（定時制課程）であるといえる。しかしながら、これらの学校の特徴の1つは、学校的価値に基づく「指導」（たとえば、「受験学力」に代表される成績至上主義の学習指導や既成の秩序に順応的な生活・生徒指導など）からは一歩離れたところで、様々な困難をかかえた生徒のありのままを受けとめ、ていねいにねばり強く、生徒に寄り添う教育実践が営まれている点である。それは、決して“ムダ”を許さない、「効率」や「費用対効果」を絶対視するような新自由主義的な教育モデルとは相容れないものである。

本稿は、音更高校定時制農業科1校の、しかも簡易なアンケートによるものにすぎず、そこから、定時制高校やその教育についての理論や事実の一般化・普遍化を定立させることはもちろんできないが、ともすると情緒的に語られがちな定時制高校の教育的な意義の“輪郭”の一部を多少は鮮明にできたのではないかと思っている。今後は、高校統廃合に対峙するための具体的な方策について、一層の理解を深めると同時に、高校統廃合を少しでも押し返すための“したたかな”実践を構想していきたいと思う。

#### 〔注〕

- 1) 2012年9月4日付十勝毎日新聞、9月5日付北海道新聞（十勝版）をそれぞれ参照のこと。
- 2) たとえば、埼玉県立浦和商业高校定時制の取り組みがある。詳しくは、浦和商业高校定時制四者協議会編『この学校がオレを変えた 浦商定時制の学校づくり』、ふきのとう書房、2004年を参照のこと。
- 3) 北海道音更高等学校『平成25年度学校要覧』、2013年。
- 4) 4月の新学期をスタートしてから9月中旬の調査日までの間に、8名の転・退学者があり、このことについては別の考察が必要だと考えている。
- 5) さしあたり、田島重雄編『北海道農業教育発達史』、日本経済評論社、1980年の各章・節における定時制農業教育の展開やその動向に関する記述を参照のこと。
- 6) アンケートにおける生徒本人の自己評価によるもの。